



交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は四輪車のドライバーに、高速道路のサービスエリアを走行している時の危険について考えてもらうためのKYTです。

活用方法

1. 少人数のグループをつくります。
2. 「交通場面のイラスト」を見せながら、意見を出し合います。
3. その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すれば良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト (カラー・A4版)」は下記 SJ ホームページでご覧いただけます。また PDF ファイルもダウンロード (無料) できます。

ホンダ SJ 検索

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業 (株) 安全運転普及本部
TEL: 03(5412) 1736 E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp

© 本田技研工業 (株)

あなたは高速道路のサービスエリアで、駐車スペースを探しています。前方の子どもが横断を終えたので、先に進もうとしています。

安全に通過するには、どのようなことを予測する必要がありますか？

Q1

道路交通法では、何歳未満の子どもを一人歩きさせてはならないと規定しているでしょうか？

- ① 4歳未満
- ② 5歳未満
- ③ 6歳未満

Q2

平成27年の子ども (12歳以下) の歩行中の交通事故死傷者数を年齢別にみると、最も多い年齢は次のうちどれでしょうか？

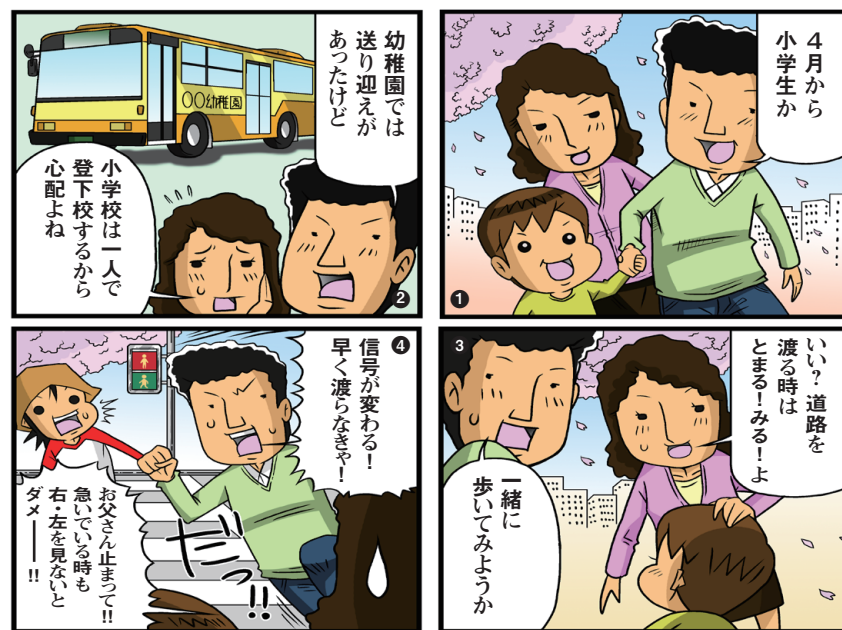
- ① 6歳
- ② 7歳
- ③ 8歳

Q3

平成28年に警察庁とJAFが実施した調査では、6歳未満の子どものチャイルドシートの使用率は何%だったでしょうか？

- ① 約60%
- ② 約80%
- ③ 約90%

※「解答」は8面下「解説」は下記 SJ ホームページでご覧いただけます。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>



漫画：塚本ケスケ

SJ クイズ ?

子ども編

© 本田技研工業 (株)

指導者ファイル

このコーナーでは、地域で活躍する交通安全教育に携わる指導者の方々を紹介していきます。

37

福井県・鯖江市交通安全教育指導員の皆さん

伊藤智絵さん (左)、野村陽子さん (右)

現実の交通現場で役立つ指導を実践

鯖江市は福井県のほぼ中央に位置する人口約7万人の都市だ。同市では市民まちづくり課に所属する交通安全教育指導員・野村さんと伊藤さんの二人が、幼児、小・中学生、高齢者への教育・啓発を担っており、平成28年度は交通安全教室を200回以上実施している。特に、幼児向けの交通安全教室では「サバーン」というオリジナルキャラクターを活用している。伊藤さんが2年前に考案したもので、鯖江の交通安全を見守るヒーローとして、子どもたちに親しまれている。

交通安全教室において、二人は現実の交通現場で役立つ指導を実践している。同じ幼稚園・保育所で年間3回開催しており、小学校入学前のタイミングとなる3回目は、年長クラスの幼児がランドセルを背負って安全確認の練習を行う。

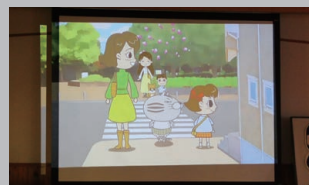
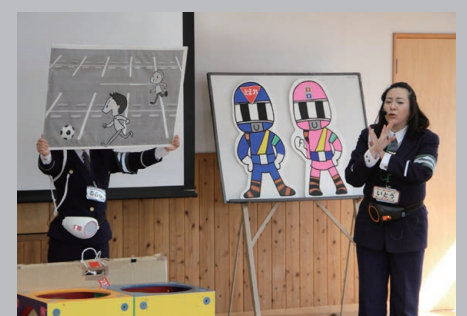


「小学生になると、登下校でランドセルを背負って歩くことになります。その状態に子どもたちがとまどわないように、左右の安全確認の練習もそれに近い状態でやろうと考えました。ランドセルには2kg相当の本を入れ、それを自力で背負うところから始めてもらっています」と伊藤さんは話す。

交通安全教育は誰から教えてもらったかを印象づけることも重要だと野村さんは考えている。「だから、私は伊藤さんのことを『いとうちゃん』と繰り返し呼びます。家に帰って『今日はいとうちゃんが来た』と伝えてもらえればいいのです。それを聞いた保護者の方は当然『いとうちゃんって誰?』となります。これが家庭で交通安全のことを話題にもらうきっかけになると思っています」。

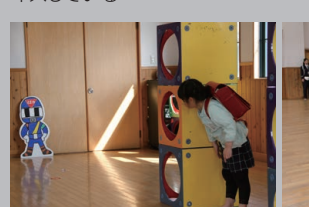
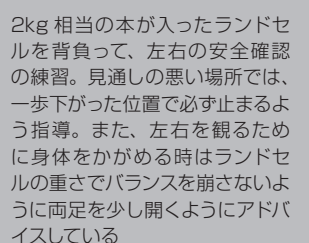
● 保育所での交通安全教室

サバーン (左) は鯖江の交通安全を見守るヒーロー (「鯖」と「安」を組み合わせてサバーンと命名)。アゼリアン (右) はサバーンの妹という設定 (アゼリアは市の花である「つつじ」を意味する)



Hondaの「できるニャンと交通安全を学ぶ」を使って「止まる」「観る」の重要性を伝える

交通安全教室の冒頭では子どもたちにクイズを出題。今回は、駐車場で遊んではいけないことなどを説明した。出題する内容は幼稚園・保育所等の先生の声参考に考えている



2kg相当の本が入ったランドセルを背負って、左右の安全確認の練習。見通しの悪い場所では、一歩下がった位置で必ず止まるよう指導。また、左右を観るために身体をかかめる時はランドセルの重さでバランスを崩さないように両足を少し開くようにアドバイスしている



「サバーンのおやくそく体操」は、鯖江市が鯖江ロータリークラブ、丹南ケーブルテレビなどと連携して考案した交通安全体操。鯖江ロータリークラブのスタッフが野村さんと伊藤さんと一緒に幼稚園・保育所等を巡回して普及している

指導者の皆さんの活動を動画でご紹介
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/area/movie/>